



奈川の人口	
令和6年7月1日現在	
総世帯数	286世帯
総人口	556人
男	271人
女	285人
発行 奈川公民館	
発行者 忠地愛男	
編集者 公民館編集委員会	
印刷 (株)プラルト	

第四十二回 野麦峠まつり

五月二十六日、野麦峠まつりが行われ、一般参加者とともに仮装した奈川小中学校児童、生徒、職員も峠道を歩きました。ワサビ沢を起点に、山道を登り女工姿、歩荷姿で被写体となりながら進みます。峠の頂きにたどり着くまで、ずっと登り道でしたが、途中の石碑にお参りし、山頂では乙女地蔵に花を手向け、往時の人びとを偲びました。



サードブック事業



六月六日、市のサードブック事業として、奈川小学校一年生の教室に絵本や読み物三十五冊が贈られました。この事業は松本市が十ヶ月検診、三歳児検診にそれぞれ好きな絵本をプレゼントするファーストブック事業からつながっているもので、新一年生に学級文庫として本を贈っています。真新しい絵本に小学生は一年生に限らず、とても喜んでいました。



わらび採り



五月二十四日、毎年恒例の奈川小中学校のわらび採りがありました。快晴の中、保護者や地域の方、大原クラインガルテンの方にも、ご協力いただきました。牧場に着くと、それぞれが、みんな真剣にわらびを採り始めました。斜面にはしっかりとしたわらびが、ニヨキニヨキと顔を出し、斜面の奥まで続いていました。学校に戻ってからは、仕分け作業を行い、今年の収穫量は、二百十八・四キロに！

わらび採りの収益金は、児童会・生徒会の活動や、わらび文庫として有効に使われます。みんなで団結して出来た、素晴らしいわらび採りとなりました。



五月二十日、奈川小中学校にて、第一回コミュニティスクール運営委員会が行われました。子供達と関わり深い組織や団体のメンバーからなる委員会、学校と地域を繋ぎ、一体となって子供達の健全育成に取り組んでいます。

学校から子供達の様子を報告していただいた後、今年度の動きや、近い将来の学校の様子等についての意見交換も行われました。学校の空き教室の活用と、開かれた学校を目指すため、地域交流ルームを新設したこと。また、奈川だからこぞできる学びや行事を行う一方で、修学旅行を他

コミュニティスクール



六月五日に、奈川小学校のふるさと学習が行われました。地域内の境川流路工事箇所、特産の保平かぶの漬物などの奈川山菜(株)工場、川の水を利用した正沢えん堤小水力発電所を見学し、奈川郵便局では、取扱う業務の内容を学びました。

そして、黒川渡法面工事箇所では、川瀬建設(株)の大きなクレーンやタイヤドーザーの運転席に乗せてもらい、小学生は大興奮の一日でした。

の学年や、他校の生徒達と行くといった変化も大切にしながら、学校教育の充実を図っていました。

学校はホームページを開設しており、日々の子供達の様子を知ることができます。是非、沢山の方々に学校を知っていただきたい。そして、地域一丸となって子供達を育ていくことの大切さを共有し、持続していけたら良いと感じました。



人権啓発研修

六月二十七日、人権啓発視察研修で長野市松代町を訪れました。

松代象山地下壕では、当時使用された削岩用ロッドの跡やトロッコの枕木跡がそのまま残されていました。

参加者の方からは、「奈川地区からも地下壕を掘りに行った人がいた。」というお話や「戦争中にこれだけの地下壕を掘るのは大変だったのではないか。」などの感想がありました。



野麦路

私には、何年か前から気になっている男性が二人いる。一人は、たぶん二駅分を徒歩で移動し、用事を済ませている方。もう一人はヘルメットを被って農作業に精を出している方。

私は勝手に、前者を「おじちゃん」後者を「ヘルメットおじさん」と命名し、見かけると、『あ、居た』と思わず笑顔になっている。面識は全くない。それでも気にし続け、今に至る。

ヘルメットおじさんは、車の運転もヘルメットを被ったまま行っていたので、それはまるでレーサーみたいで格好良い。

おじちゃんも、ヘルメットおじさんも、もう何年も変わらずに生活スタイルを維持しているのさ。お陰で、私は見かけることができる。

もしおじちゃんが歩けなくなったら？もし私が車の運転をできなくなったら？今まで当たり前前にできていたことを続けられるって有難いことだ。とつくづく思いながら、元気でいてね、私も元気であるからねと、彼らには聞こえないエールを送っている。

スマイル山雅健康教室



奈川地区福祉ひろばでは、六月のふれあい健康教室で、今回で四回目となる「スマイル山雅健康教室」を開催しました。

松本山雅のスタッフによるタオルを使った脳トレや、二人一組になったのタオルやボールを使ったゲームなどを行いました。

また、トレーナーによる音楽に合わせた体操では、色々な動作を考えながらテンポに合わせるのが難しかったですが、参加者は笑い声を上げながら楽しんでいました。脳トレにもなり汗をかくほどの良い運動になりました。